



EMERGENCY WATCH

NO. 90 Jun 2018



神戸こども初期急病センター

2018年5月
受診者数
1691人

疾患頻度

- | | |
|--------------|------|
| 1. 急性上気道炎・感冒 | 435人 |
| 2. 感染性胃腸炎 | 423人 |
| 3. 咽頭炎・扁桃炎 | 230人 |
| 4. 気管支炎・肺炎 | 123人 |
| 5. ぜん息 | 113人 |



本年も、はや半年が過ぎようとしており、時のはやさを感じるこの頃です。ほどよい暖かさの時期はあっという間に過ぎ、どんどん蒸し暑くなってきていますね。今回は夏場に増加する、いわゆる夏風邪をとりあげてみたいと思います。

Q1 どんな病気？

梅雨の時期から夏にかけて流行するウイルス感染症を一般的に夏風邪といいます。ヘルパンギーナ、手足口病、プール熱などが代表的な疾患として挙げられます。エンテロウイルスやアデノウイルスが原因として多く、これらのウイルスは高温で湿度が高い環境を好むため、梅雨から夏にかけて流行します。

Q2 どんな症状？

ヘルパンギーナは口やのどの奥にプクッと膨らんだ水疱が数個から十数個でき、多くは40度近い高熱が数日出ます。水疱は約1週間程度で治ります。

手足口病は手の平・足の裏・口の中に米粒様の発疹ができ、時には肘・膝・お尻にまでみられます。口の中に口内炎がたくさんできると痛みが強くなり、食事ができなくなります。1週間ほどで自然に治ります。高熱を伴うこともあります。

プール熱はプールで感染することが多かったことからできた通称で、咽頭結膜熱とも呼ばれます。高熱が4～7日程度と長引き、のどの痛みや腫れ、目の充血や目やになどの症状が1週間程度続くことが多いです。

Q3 治療は？

夏風邪のウイルスに特效薬はありません。自然治癒します。高熱による倦怠感、頭痛、のどの痛みなどを軽減するために、クーリング、解熱鎮痛剤使用などを適宜行い、安静を保ち、体調回復につとめます。咳、鼻汁、下痢などを伴うことも多く、症状にあわせて、咳止めや去痰薬、整腸剤等を使用することもあります。

Q4 病院受診の目安は？

病院での治療については特別なものではありませんが、苦しい症状を軽減させるような投薬や処置は可能です。全身状態が良く薬の希望がない場合は必ずしも受診は必要ありません。しかし、経口摂取困難でぐったりするなど、脱水症や全身状態悪化が疑われる場合は、血液検査や点滴をしたり、他の病院へ紹介することもありますので、つらい症状があれば受診してください。迷う場合は電話相談も利用してください。